



どうにかする力

泗水小学校だより
R5. 1. 31(火)
No. 43
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに
【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成
～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～



※左のQRコードを読み取ると泗水小
HPに移動します。随時更新中です。

中学校進学に向けて希望を新たに！～泗水中入学説明会～

1月24日(火)に、6年生児童とその保護者を対象にした泗水中入学説明会が行われました。新型コロナウイルス感染対策として、6年生は各小学校の教室、保護者は泗水中の教室でオンラインで開催されました。

説明会では、泗水中の山本校長先生の講話の後、生徒会から学校生活の様子や決まり、学校行事や部活動等についての説明がありました。写真や動画も見せながら具体的な説明があり、熱心に話を聞く6年生の姿がありました。

中学校入学に向けて、6年生は期待と不安の両方があるのではないのでしょうか。心配なことなどがありましたら、6年担任に相談していただくと、中学校にお尋ねして回答もできるかと思えます。小学校としても、子どもたちが安心して中学校入学を迎えられるよう、ご家庭と連携しながら対応しますので、ご協力をよろしくお願い致します。



6年1組教室の様子

給食に感謝の気持ちを！～給食ありがとう週間～

1月24日の「学校給食記念日」に合わせて、本校では1月23日(月)からの1週間を「給食ありがとう週間」としました。学校給食の意義や食に対する関心を深め、給食への感謝の気持ちや望ましい食習慣を育てることを目的としています。期間中には、給食委員会が校内放送で給食の歴史の紹介や食に関するマナークイズをしたり、給食集会の実施、残食チェックと表彰、給食センターへのお礼の手紙を書く取組などを行ったりしました。



1月25日(水)給食週間献立
テーマ:昔の給食
梅干しおにぎり、さつま汁、塩
鮭、たくわん和え、牛乳

「学校給食法」の第2条には、学校給食の目標が7項目挙げられています。その中に、「④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う」「⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養う」とあります。食前の「いただきます」、食後の「ごちそうさま」は、食事がすべて生き物の命から成り立っていること、自分の口に入るまでに多くの方々のご苦労されていることに感謝する気持ちが込められています。これは、④と⑤に通じるものだと思います。

日本のこの言葉も、海外ではその習慣や言葉自体がない国も多いと聞きます。ドイツ、フランス、スペイン、イタリア語では、「いただきます」の代わりに、「良い食事を」を意味する言葉を使うことがありますが、日本語の「いただきます」とは随分意味が違うように思います。食育は、食から生命の尊さや相手への気遣いを学ぶ心の教育です。今日も感謝の心で、給食をいただきたいと思えます。

☆校長室から独り言40☆

「過去の事実は変えられないが、過去の意味は変えられる！」

前回号でも書きましたが、息子が正月休みに東京から帰省したときのことで。息子と妻の会話を聞いていました。昔話になって、妻が、「あなたが小・中学生の頃、いろいろとやらかしたでしょ。私は、何度学校に謝りに行ったことか。私の子育ての何がいけなかったんだろうと悩んだものよ。」

それに対して、息子は、「あのね、あの時のいろんなことがあって今の俺があるわけよ。過去の事実は変えられないけど、過去が今にもたらす意味は変えられる。あんなことがあったから今がある…とプラス思考で考えることが大事。お母さんも教育者なんだから、そういう風に考えてほしいなあ。」

妻は「どの口が言うかね…」と反論していましたが、その後で、「あんなことがあったから今がある…と前向きに解釈することは確かに大事よね。人は変わる。小・中学校で決まるわけではない。」と、完全に息子の言葉に納得した様子でした。

今回は、わが家での母と子の会話をご紹介します。